令和5年度第2回GFVC全体会合

「マレーシア向け輸出に関するセミナー」全体コメント

GFVC会長　深川由起子（早稲田大学）

マレーシアにおける日本食市場概況

（ジェトロ・クアラルンプール事務所）

- ASEANのグラデーション市場構造（シンガポール＞マレーシア＞タイ＞インドネシア＞フィリピン・ベトナム）
- 都市部/富裕層/華人の存在→シンガポールの延長？だが、ハラルハブ型の機能優位
- 健康の価値（糖尿病（砂糖＋脂）≠高血圧（酒＋塩分））、オーガニック志向（自然の豊かさ）、食品の外観重視（華やかさ、美しさ）→日本の食生活との親和性、日本食レストランの専門化（≠一般和食、ベーカリーからおまかせまで）
- E-commerce(グラブ）の浸透力、インフラ
- ハラル市場へのGateway（マレーシアからのグラデーション（中東市場）：イスラム金融、観光、ファッション、医薬品、娯楽その他）
- 政府の積極支援（国策としてのハラルハブ）
- 多様な制度選択（CPTPP、RCEP、ASEAN、日-マレーシア）

現地企業の取組事例（Focal Marketing社）

- マレーシア料理×日本食の追求（ハラル＋ノンハラルの分離、チャネルの多様化・拡大（スーパー、コンビニ、通販？）→重要な情報提供機能、プレゼンテーション

  →インバウンドへの働きかけ強化？、調味料の多様化？
- 重要性増すコスト（中国、インドネシア、タイから流入するハラル認証食品：ハブ機能を発揮するためにも重要なコスト競争力、付加価値をどこに求めるか？）
- 原材料の厳格化推進：コストとの見合いをどうつけるのか？（アルコール、豚肉成分の把握、ラベル表示）→ハラル・ハブに向けた政府への働きかけ？

ＥＰＡを利用したマレーシア向け輸出（東京共同会計事務所）

- 対マレーシアの貿易環境：多様な選択余地（CPTPP、RCEP、ASEAN、日マ）だが、CPTPPの高水準自由化のメリット（精米、清酒、ウィスキー）、自己証明
- だが品目による違いあり（RCEP：醤油、柿、葡萄など自由化までに時間、CPTPPが必ずしも一番自由化の水準が高いとは限らない）
- 加工食品で特に重要な原産地（CPTPPでは域内に累積ルール、ハラル認定の厳格化が進むなら原材料その他も追求される可能性？）
- 重要な原産地証明手続き（コストの省略が必要、制度的にはCPTPPの自己証明方式に大きなメリット）